

this month  
HighLight  
1  
今月の注目

# 自衛隊ヘリが降り立つ 孤立集落の住民救出訓練



風にたなびく吹き流し。ヘリが着陸する際、どの方向から着陸態勢に入るか決定する重要なアイテム



東海地震など大規模災害時、道路や橋が決壊し、孤立集落が発生した際に活躍する自衛隊ヘリコプター、町オフロードバイク隊、そして何より住民力。2月24日、大規模災害を想定した住民救出訓練が実施されました。

地域住民を乗せた自衛隊ヘリUH-1型が高郷河川敷に着陸態勢に入った。誘導しているのは町オフロードバイク隊山本庸輔隊員。

## 各組織が連携して訓練を実施

山間部にある本町では大規模災害発生時、道路が寸断されるなどして、孤立集落が発生する可能性がります。特に、甚大な被害をもたらすと予想される「東海地震」は、いつ発生してもおかしくない状態にあり、町を挙げての防災活動、啓発、訓練が求められています。

孤立した集落の人たちを素早く、そして安全に避難させるため、町では自衛隊や県防災機関と連携し、自衛隊のヘリコプターによる住民救出訓練を昨年から展開。今年2月24日に実施されました。

自衛隊から派遣されたヘリコプターはUH-1型。自衛隊を始めとして、多くの国々で現役として活躍する機種です。

高郷河川敷を発着点としたUH-1型は午前中、壱町河内地区と久保尾地区へ飛び、それぞれの地区住民を仮想救出して、高郷河川敷へと

戻ってきました。

各地区では、臨時のヘリポートを設置。住民の皆さんがヘリに向かって手や旗を振り、着陸をサポートしました。高郷河川敷に戻ってきた際には、町オフロードバイク隊員が着陸の誘導をしました。

午後は各学校を対象として同様の救出訓練を実施。中川根第一小学校、本川根小学校、川根高校へと飛んだヘリは、各学校の先生らに乗せ、高郷河川敷へと戻りました。

すべてのスケジュールが終了したのは午後3時過ぎ。文字通り、丸1日かけた訓練は、多くの人の協力により実施され、その有効性が確認されました。

## 防災は自らの手で

実際に大規模災害が発生したときには、今回の訓練のように、地域の人たちが自ら行動することが必要です。それはヘリの誘導だけではありません。家族や隣近所の人への安否確認、救助が必要な人への手助け、ライフラインの確保、情報収集、現状の把握、炊き出しなど、地域住民が主体となった自主防組織の活動は多岐にわたります。日ごろから訓練を重ね、備えておくこと。過去の教訓を「忘れず・生かす」ことが、大切な人を、大切な地域を守ることに繋がります。

